

O B 会 報

—湘南高校サッカー部— 第3号

今昔の感

(第3号OB会報に寄せて)

OB会長 天野 武 一 (一回)

一九八〇年から、トヨタカップの名のもとに、
超一流の試合が、年間の行事として定着した
ことは、本当に喜ばしい。一九八四年度のト
ヨタカップは、去る十二月九日、東京・国立
競技場に六万二千の観衆を集めて行われた。
同年度のヨーロッパ・チャンピオン・クラブ
ズ・カップに優勝したイングランドのリバプ
ールF・Cと、リベルタド・レス杯・南ア
メリカ・クラブ選手権者のアルゼンチン、C
・A・インデペンディエンテが対戦したので
ある。前夜の雨がからりと晴れた絶好のプレ
ー日和、正午のキックオフを前に詰めかけた
ファンは早くも大スタンドを埋めつくし、試
合が進むにつれて競技場の上空に飛行船型の
気球(？)がゆらりと姿を見せたりした。

さい、当日の試合は、多少のはげしいスライ
ディング・タックルなどの反則がみられた程
度で、まずはきれいなプレーの連続に終始し、
スピードと球のコントロールに勝るアルゼン
チンが前半十六分に入れた一点を守り切って
勝者となり、新聞も「世界一決定戦にふさわ
しいハイテクニクスの応酬をみせてくれた」
(朝日)と報じたのである。偶々、私と席を
並べて観戦していた英国籍の往年のゴールキ
ーパー、マクドナルド氏夫妻は、決勝のシュ
ートを蹴込んだホセ・アルベルト・ベルクダ
ニのプレーをオフサイドだと主張し、夫人も
また、レフェリーのフィリヨという同じ南
米ブラジル出身の笛の吹き方が公正を欠くと
批評し、英国の選手はプレーする気持ちをし
うだるうなどと、私に不満を告げるのであつ
た。たしかに、リバプールは、バックライン
を浅くしてオフサイドトラップで守り、ライ
ンズマンが旗を振ってレフェリーに笛を吹か
せる場面が目立ったが、朝日新聞も伝えたよ
うに「中盤に名手をそろえたインデペンディ
エンテの方が一枚上手だった。開始六分英国
選手らに与えたということが伝えられていた。でのプレー経験をもつマランゴニが、中盤で

奪った球を素早く縦パス。そこへ、すかさ
ず飛び出した十九才の駿足ベルクダニがドリブ
ルで独走。飛び出した相手GKの動きを見極
め、楽々とシュートを決めた」のである。
リバプールもよく頑張り大きなパスを出して
ゴール前に球を持ちこむ健闘をみせ、あわや
と思わせる場面もあったのだが、なんとなく
エレガントな感じで、走力や競り合う瞬発力
と粘りの点で一步を譲り、アルゼンチンのゴ
ールキーパー、ゴジエン(ウルグアイ代表)
のまことに確実で敏捷果敢の美事な守備を破
ることができず、本年もまた欧州勢の敗退に
終った。

とにかく、彼らのスピードとフットワーク
のすばらしさは、大変なものである。その帰
りに私は、今から五十七年前の十二月二十四日、
旧制高校の仲間とともに、元旦からはじまる
インターハイに備えて母校の湘南中学を訪れ、
岩淵二郎君の率いる湘南イレブンに一戦を挑
み、十四対一で楽勝したころのことを思うに
ついても、優長なプレーを顧みると、一体
あれはサッカーであったのかと、まことに恥
じ入るばかりで、ただ茫然といまさらの如く
に今昔の感を深くするのであった。



名門サッカー

OB戦に

惨敗

常盤嘉一郎(六回)

湘南と東京高師附属の両校で行っていた年一回のサッカーOB定期戦に、数年前から東京五中が加入して三校の恒例対抗戦を毎年十一月頃に実施していた。それが今年五十九年から附属の春山、竹内両氏らの御協力を得てワクを拡げることになり、東京八中と神戸一中を加えた所謂旧制中学サッカー名門五校のOB交歓試合ということになった。

五十九年十一月二十四日、多少の小雨もあったが、深川の東京ガスグラウンドでその第一回を行ったところ、湘南はなんと全四試合〇点、神戸一中には大量得点を許して、最下位に甘んじなければならなかった。仄聞するところでは、湘南は優勝候補ということ、ことに神戸一中にいたっては、湘南にだけは負けたくないという意気込みで、OB選手の殆んどが旧全日本級の名手揃いであり、慶応の超OB二宮君あたりを中心に、この試合のためにわざわざ練習を重ね、関西一円から大挙参集するという有様であった。

当日の参集者は小生を含めてわずかに十名、止むを得ず審判員のつもりで同行された瀬藤君(故岩淵氏の知人、SOI)を助人に頼む仕末となった。なにしろ近く満七十二才になる老兵の小生が、四試合出場という情けない陣容では、到底勝てる筈もなかったのである。しかも対神戸一中戦は、小生ではとても前後半全出場は無理だということで、後半には他校から交替要員を二人借用するという全く以てみっともない陣立てであった。他校では五中の松丸氏(旧慶応監督)が一試合出られたほかは、超OBの全員が応援だけに参集されるという優雅さで、小生の三試合半出場には、老年組から「君はお化けだよ」という冷かしが飛んだほどであった。

試合後のパーティーで、たしか五中の岡野君(協会役員、テレビ解説)だったかが「竹腰、新田ら各先輩なきあと、今日の会合は日本のサッカーの歴史が一堂に会したという、記念・感動すべき集まりであった」と強い感激を示し、附属OBの日本サッカー協会副会長の島田君も同席していたので、小生から協会でもこうした会合を何かの形で正式に認定してもらいたいと希望しておいた。

さて文句を言うわけでもないが、せめて年一回のこの試合には少くとも二チーム編成できくらゐの人数が参加してほしい。小生ごとき下手くそなロートルまで出場させるようでは、伝統を誇る湘南サッカー陣の恥ではないかと強調して止まないものである。

なお蛇足だが、ユニフォームが不足して対外試合に事欠くとのこと、こうした機会をとらえて出場予定者は各自に保持してはいかがなものだろうか。天野会長を背番号1として以下年令順に最小限二チーム分を作成し夫々購入してもらおうことを、あえて提言させていただく次第である。

サッカー名門 旧制中学OB戦で

湘南は完敗を喫す

田村 恵(十九回)

去る十一月二十四日、高師附属中学が幹事校となり、東京ガス深川グラウンドで、戦前戦後を通じ中学サッカー界で勇名を馳せ、多数の名選手を輩出した湘南中、高師附属中、府立五中、八中、神戸一中のOBが集り、対抗戦が行われた。

各校共、張切って二十名以上のOBを集め、特に神戸一中は、東京在住のOBばかりでなく、関西からも八名が上京、二宮洋一氏(慶大)を筆頭に全日本メンバーとして活躍した名選手を揃えた豪華な顔ぶれとなった。

今回は、湘南蹴球部に在籍された方ばかりでなく卒業されたから高等学校、大学等でサッカーをされた方にも御出場をお願いしたがメンバーは、やっと十名しか集らず、藤沢在住の瀬藤氏(北大)をお願いしてどうにか十一名揃えた有様で、残念ながら完敗を喫した。七十才を超える年令で、四試合フル出場された湘南の名にかけて奮戦して下さった常盤先輩をはじめ、出場された各メンバーの方々に感謝するとともに、次回のOB戦には是非とも多数の参加を期待したい。

訃報。追悼。

安保隆文(十五回)

九回卒、島田正彦さんが去る昭和五十九年六月十五日、急性肝不全にて逝去されました。享年六十七才。湘南サッカー記念誌百三十七頁の記事も懐しく、現役時ゴールキーパー。水戸高、東大でバックスをされ、昭和十四年、十五年、十六年の三ヶ年間、現役湘南中学のコーチをされ、第二期湘南サッカー黄金時代を築き上げた輝ける大恩人でした。その学究的な純粹高潔な人格と風容と、グラウンドでの激しい「あたり」と厳しい叱責の声は、湘南サッカーの骨格と魂を数段向上させて載いた処です。お蔭を以って当時の選手達がその後、の全日本のサッカー界に大きく活躍することになったことは、当人達はもとより皆様もご存知の通りであります。近年心臓を悪くされグラウンドでボールを蹴ることは止められておりましたが、蹴球祭は勿論、岩淵さんを偲ぶ会にも出席されておりましたが、あのサッカーへの厳しさは伝統の中に受け継がれ、生き続けられている貴重な宝ではないでしょうか。湘南サッカーの為にも、もっと長生きして指導を仰がねばならない大きな星でしたのに。誠に悲しくさみしく残念なことであります。心から御冥福をお祈り致します。合掌。

鎌倉市山ノ内のご自宅に於ける六月十六日お通夜、十七日告別式には、湘南サッカー有志の生花と、藤田得利、八星泰、孚、小熊幸

★蹴球祭・総会のお知らせ★

1月15日(祝) 於 湘南高校

12時30分～17時

12:30～15:30

試合(グランド)

16:00～17:00

総会・懇親会

(大会議室予定)

- 当日午前中は、新人戦の県大会トーナメントが行われております。湘南高校は第1試合10時からの予定です。
- 総会は、会長・事務局長挨拶、会計報告の他、会の運営についての話し合いを持ちますのでよろしくお願いいたします。
- 当日雨天の場合は13時より総会・懇親会を1時間位と考えております。

《お願い》

■60年度会費納入の件

59年度はOB皆様のご協力ありがとうございました。

本年もご支援をよろしくお願い申し上げます。蹴球祭当日、受付けを致します。

・社会人 5,000円

・学生 3,000円

尚、欠席される方は、大変お手数ですが、下記口座までお振り込み下さるようお願いいたします。

横浜銀行 本店 普通預金

店番200 口座番号019166

湘南高校サッカー部OB会

代表 安保 隆文

(電)0467-22-1794

■住所等移動の件

現在OB会では、56年作成の記念誌OB名簿をもとに活動、ご連絡いたしております。住所等変更された時は下記住所宛ご連絡いただければ幸いです。

〒251 藤沢市鶴沼神明5の6

県立湘南高等学校内 藤塚 久雄

59年度会計報告

(59.1.15.～60.1.14)

収入	
58年度繰越し	31,617円
59年度会費(寄付含む71名)	389,000円
故島田正彦氏ご遺族より寄付	100,000円
銀行利息	1,027円
計	521,644円
支出	
蹴球祭関係費(1月) (ボール代・飲食費)	51,200円
安保氏返済(1月)	100,000円
現役寄付(3月)	200,000円
お香典(6月)	5,000円
合宿差入れ(8月)	10,000円
会報印刷通信費(12月)	68,340円
雑費(謝礼・文具等)	4,700円
繰越し	82,404円
計	521,644円

59年度は納入会費が例年より20万円程減っております。現役への寄付も15万円マイナスです。ご協力お願いします。

一九八四年のペガサス

大内健嗣(三十一回)

十月から十一月にかけて、神奈川県第一回郡市四十雀サッカー大会(参加十六チーム)に藤沢市より「藤沢B」チームとして出場し、予選リーグを一勝一敗一分の二位で決勝リ

十二月十二日現在 六勝三敗一分

雄、田村皓、恵、内田康待、安保隆文、服部斐夫、相羽克治、小泉親昂の参列があり、古賀晴人、館実、大壁正雄、戸沢澄の皆様からの御弔辞と御香料を載き、会からも規定の御香料をお供へさせて載いた次第です。

なお、この十二月七日御遺族の奥様から湘南サッカーOB会に、故人の気持ちとして金十萬円の御寄附を頂戴致しましたことを併せて報告させて載きます。

五十年度の出席者は
小瀬村秀夫、栗原克夫、田川明、山本修、嶋田武夫、渡嶋九州夫、中原弘己、松本好且、八木一郎、大内健嗣、田中啓元、長谷川晃一郎、牛尾慶邦、関根和衛、福井久雄、篠田亮、島山昭彦、井上孝、兼子盾夫、菊岡敬、塩崎洋一郎、渋谷繁夫、関紀夫、久森茂男、丸屋喬、小林弘治、牧村英樹、薬品行夫、小泉親

湘南ボールゲーム

クラブのこと

関 佳史(四十八回)

高校を卒業して、早十年。普段はサッカーどころか、運動する機会さえなかなかなか作れない。若手OBにはついていけないし、四十雀にもまだ入れてもらえない。しかし、体は動かしたい。とりあえずユニフォームを作ってしまったら、どうにかなるだろう—という訳で、湘南ボールゲームクラブができたのが、83年の夏。サッカー部OBが主体ではあるが、サッカーの字も知らないメンバーもいる。テニス・ソフトボールその他球技ならなんでもやろうというのが結成の趣旨。

かたちから入ったのでユニフォームだけは疑った。82年ワールドカップで活躍したフランスナショナルチームをモデルに、「R134」(国道134号)のマーク入り。湘南ボーイを気取ってみたが、対戦相手は誰も気付いてくれない。

また、将来、休日にオトコ供だけでサッカーをしても文句がでないように、カミさん連中のユニフォームも一緒に作ってしまった。その結果、このクラブが家族ぐるみのおつきあいの場にもなりそう。

さて、結成第一戦は、83年夏、千葉まで行って商社リーグ所属のチームとサッカーの対戦。七一の大勝でデビュー戦を飾った。その後、マッチメイクの良さで、なかなか負けない。もちろん、テニス・ソフトボール

の試合から、TVKテレビの綱引き大会など、サッカー以外のスポーツにも積極的に取り組んでいる。要は、皆で集まって、汗をかくて、うまいビールが飲めればよいわけだ。

ところで、最近では定期的に運動をするようになり、若干走れるようになったこともあって、活動がサッカー中心になりつつある。

また、藤塚先生を含めて、若手の加入者も増え、84年の後半は、計四回の現役との試合を組んでいただいている。

現役諸君との試合は、何といっても一番楽しいが、正直言って、そろそろ年齢的にしんどい。ちよほどよい相手があれば、ご紹介いただきたい。また、新規に加入したい方も、ご連絡を下さい。

現役の活動報告

83、84キャプテン

浜口正大

私たちの成績は満足のいくものではありませんでした。一つ上の先輩の輝かしい成績に続くよう努力したのですが果たせませんでした。OBの方々の期待にこたえられなかったのは残念です。

入部のとき不思議に思ったことがあります。初めて顧問の先生を見て「なんだこのおやじさんは、サッカーを知っているのかなあ」などと思っていました。先輩にきくと「今にあの人の恐ろしさが分かるよ」と言われました。そのときは「そんなものかなあ」と思っ

ていましたが、だんだん鈴木先生のすごさが分かるにつれて大変な部に入ってしまったという気持ちとやらなければならぬという自覚がでてきました。それから私は一生懸命練習しました。それは人に言われてやったことではありません。この自分からやるといってとが湘南サッカーの一番大切なところだと思います。最後にOBの方々にはいろいろな援助をして頂き、非常に感謝しています。この場をかりてお礼を申し上げます。

59・1月 新人中央大会
湘南 3対0 日野高

2月 市民大会
1対0 藤沢商業
0対1 金沢高

3月 静岡遠征(3勝1敗3分)
1対1 枚方FC
1対1 上野高
0対1 三本木農業
0対0 静岡学園
4対2 天理高
2対0 八千代松陰
3対0 神戸FC

4月 築波大付属定期戦 2対1で勝利
関東大会予選
2対1 慶応高
3対1 逗子開成高
0対1 日大高

5月 総体県選

4対0 和泉
1対2 厚木
第28回浦高戦 0対0で引分け

8月 全国高校選手権一次予選

18対0 秦野南ヶ丘高
3対0 弥栄東高
3対0 栄光学園
0対1 日大高
10月/11月 県新人大会湘南地区予選
0対1 藤沢北高
6対0 湘南通信
4対0 藤沢工業高
1対0 西浜高(代表決定戦)

現在、新チームの新人中央大会(1月13日より)での活躍が期待される。

編集後記

相羽克治(四十一回)

会報第三号をお送り致します。今回は会長を始め諸先輩方からご投稿をいただきありがとうございます。毎年ながら、発行が遅れ申し訳ありません。59年度は、8月に正式な集まりを持たなかったためか、会費の納入状況が前年よりかなり悪くなっており、60年度からは、武藤(53回)・藤塚(54回)君に実務を引き受けて戴く予定です。ご協力よろしく願います。